

里ちゃんだより

里庄町教育委員会

電話 0865-64-7212



教育長あいさつ

里庄町教育委員会 教育長 杉本 秀樹

町民の皆様方には、平素から教育行政の推進につきまして、何かと大変お世話になりまして心より感謝申し上げます。先日の一日学校公開では、子どもたちの元気な様子を見ていただき、温かい励ましをいただきましたことに厚くお礼申し上げます。

また、本年度、内容を充実させました「さとしょう未来塾」におきましても様々なご支援をいただき、多くの行事が充実したり、円滑に運営できたりしております。

今後とも皆様のお力をいただきながら、学校教育・生涯学習のさらなる推進を図ってまいりますので、皆様方のご支援とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。



一日学校公開の様子

里庄町の子どもの学力は？（全国、岡山県学力・学習状況調査の結果より）

全国学力・学習状況調査（小学6年生、中学3年生）全体としては、ここ数年、全国平均と比べて同程度か、よい年が続いております。本年度につきましては、小学校は、国語と算数の全てが全国平均をわずかに下回りました。中学校も、国語と数学の全てが全国平均をわずかに下回りました。

岡山県学力・学習状況調査（小学3年生～5年生、中学1年生～2年生）では、小学校は、国語と算数の全てが県平均を上回りました。中学校は、国語は県平均と同程度か上回りました。数学はどちらの学年も県平均より上回りました。英語は県平均よりもわずかに下回りました。

今後も、子どもたちのよさや頑張りを的確に認め、自己肯定感を育みながら、一人ひとりの子どもたちがもっている力を、さらに伸ばしていくことが大切だと考えています。

○よくできているところ：漢字・計算など基礎的な内容

★課題と考えているところ：目的に応じて文章を書いたり、説明したりすること。

里庄町では小学校と中学校が連携して、学力向上の重点目標を次の3点に決めて、充実を図っています。

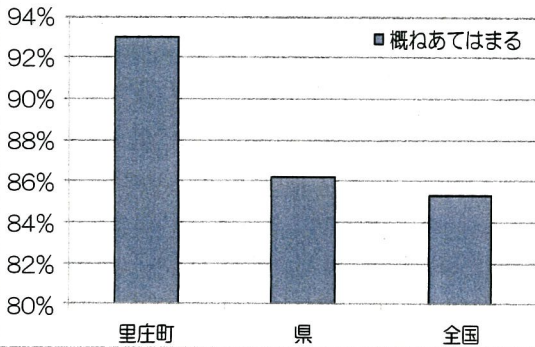
- ① 基礎・基本の徹底 ②表現力の育成（書く力） ③家庭学習の充実

今後も、学校・家庭・地域で力を合わせ、「豊かな心」「確かな学力」「健やかな体」の育成に全力で取り組んでまいります。

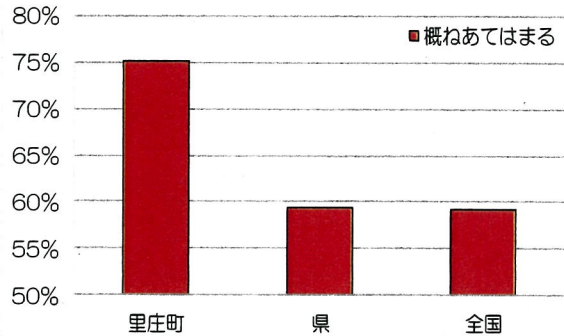
（文責 天野正彦）

里庄町の子どもよさは？（全国、岡山県学力・学習状況調査の結果より）

人が困っているときは、進んで助けていますか。（小学6年生）



地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか。（中学3年生）



里庄町の小学6年生は、岡山県や全国の子どもと比べて、「人が困っているときは進んで助けている。」と、回答しています。また、里庄町の中学3年生は、「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。」と、回答した子どもが多いという結果になりました。これらは、小学校、中学校ともに見られる傾向でした。進んで人に親切にしたり、地域や社会で起こっている問題や出来事に関心をもったりすることは、周りの人や地域などとのつながりを大切にし、自分の生活を豊かにしていく上で、とても大切なことであると考えます。自分自身を高めていくことはもちろんのことですが、周りの人と支え合いながら成長していくことのできる、知徳体のバランスのとれた、たくましい子どもに育ててほしいと考えています。

<その他の項目で、町内の小学6年生・中学3年生がともにポイント数が高かった内容>

- ・友達と話し合うとき、友達の考えを受けとめて、自分の考えをもつことができる。
- ・難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。

メディアとの接し方の項目では、携帯電話やスマートフォンの使い方について、家の人と約束したことを守っている子どもや、テレビを見る時間やゲームをする時間などのルールを、家の人と決めていく子どもが多くいることが分かりました。しかし、テレビ、ゲーム、携帯電話、スマートフォンなどのメディアに接する時間が長い子どもが、県・全国並にいるという結果も分かりました。規則正しい生活は、健やかな心と体の育成につながります。子どもだけで家庭生活のルールをつくったり、守ったりすることは難しいこともあります。保護者の責任として、またご家族そろってのご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

～落ち着いて、規則正しい生活を送るために家庭でできること～

- 携帯電話やインターネットをする時間が長時間にならないようにする。そのために、家で約束を決めて、きちんと守らせる。
- 家庭学習（予習や復習も）をきちんとする。そのために、励ましの声かけをしたり、学習の様子を見たりして、家族みんなで子どもの頑張りを温かく見守る。

それぞれのご家庭で、お子様のための取り組みをお願いいたします。

（文責 天野正彦）

落ち着いた集団づくりと豊かな心・人間性の育成のために

～ 小中が連携した取り組みを通して ～

里庄町では、小中で一貫した「育てたい子どもの姿」を設定して、9年間の歩みの中で育てていきたいと考えています。そこで、今年度は、**学習規律・生活規律の確立のため、次の3つを重点項目として、取り組んでいます。**(小中学校では、学校生活での実態が異なるため、表現に若干の違いがあります。)

(1) あいさつができる

- ・登下校においても、校内においても、地域の人々や先生・友達に大きな声で元気にあいさつができるようにします。

(2) 掃除（美化）がきちんとできる

- ・時間いっぱい、汚れているところを見つけて、隅々までできるようにします。

(3) 時間（2分前着席）が守れる

- ・授業の始まりなど、決められた時間に遅れないよう準備します。



小中学生合同授業

上記以外にも、各校で社会性を高めるトレーニング等を実施し、コミュニケーション力や自己肯定感を高める授業も取り入れています。また、小学校から中学校へのスムーズな接続のため、中学校教員の小学校での出前授業や、夏休みの中学生による学習支援ボランティア、6年生の入学体験時の合同授業等、不安感を期待感に変える取り組みも積極的に行っています。
(文責 里庄中学校長 田原直樹)

「里ちゃん 子育て未来塾」開催

現在の子どもたちを取り巻く環境は、親世代が経験したことのない課題を抱えるなど、多くの問題が山積んでいます。また、多種多様な働き方のため、子どもたちに関わる時間が減少したり、親同士の関係も希薄化したりと、どのように子どもに接し、支援したらよいか悩みをもたれている保護者もおられます。そこで、親同士が悩みや課題を共有し、共に考えることで子育てについて気づき、親として子育てに意欲的に取り組んでいく機会をつくりたいと考えました。そして今年度から、各校PTA・町PTA連合会・町教育委員会が連携して、年3回「里ちゃん 子育て未来塾」を開催しています。現在、2回の研修会は終了しましたが、毎回30～40人のご参加をいただき、楽しく子育てについて考えることができました。

第3回は、岡山龍谷高校専務理事の中村好孝先生をお招きしての講演会を予定しています。中村先生の講演は、動画や写真を取り入れ、毎回笑いあり涙ありと大好評です。今回は、今後の教育改革を見すえて、子どもたちにつけさせたい学力と、意欲の高め方についてもお話ししていただく予定です。とても参考になると思いますので多くの皆様のご来場をお待ちしています。
(文責 里庄中学校長 田原直樹)



第1回の研修会

(1) 第1回研修会 「困ったことへの対処法」 6月27日(火)開催

- ・各場面に応じた適切な言動ができず、悩んでいる我が子への上手なアドバイスの仕方

(2) 第2回研修会 「気づいていますか？ 子どものサイン！」 9月28日(木)開催

- ・日々の生活の中で、子どもが発するSOSやストレスのサインの気づき方

(3) 第3回研修会 11月30日(木) 14:00開催予定 場所 里庄町福祉会館

- ・講師 岡山龍谷高校専務理事 中村好孝先生 演題「未定」

地域と連携した体験学習の取り組み

里庄中学校長 田原 直樹

里庄中学校では、平成23年度から毎年、技術家庭科の授業の一環として里庄町特産のまこも栽培に取り組んでいます。今年も6月の田植え体験から10月の収穫体験・出荷体験まで、マコモ同好会や町行政の方々のご支援をいただき、生徒たちは貴重な体験をすることができました。

こうした学習の中で、地域の方々からは、親切丁寧な指導をいただいています。また、「暑い中、よくがんばったね。」「上手にできたね。」と声をかけいただくことで、生徒たちは自分たちも役立っている、大切にされていると感じ、里庄町民としての自覚をもつことができていると感じます。

今後も、地域の中学校として、地域で活躍できる中学生を育成していきたいと考えています。



まこもだけの収穫の様子

全校ソーシャルスキルの取り組みについて里庄東幼稚園・小学校長 今井 豊



体育館での様子

里庄東小学校では、昨年度より、「よりよい人間関係を形成する力を育てるため」に、全校でソーシャルスキルを学んでいます。その際には、体育館に全校児童が集まり、教師の説明を聞いたり、劇を見たりして、よりよい関わり方を勉強します。その後、教室に戻って、2人組やグループになって声かけの練習をし、よりよい関わり方の定着を図ります。今年度は、「気持ちのよいあいさつをしよう」「友達の話を上手に聴こう」などの学習をしました。

今後は、「上手な断り方」など、次第に難しい場面を学習するようになりますが、よりよい人間関係を築くことが、学級づくりの土台になります。学校全体で取り組むことで、効果を上げていきたいと思えます。

また、幼稚園でも同じ考え方で子どもたちが気持ちよく幼稚園での生活が送れるようにしていきたいと考えています。（※ソーシャルスキル・・・他者と良い関係を築くために必要な能力のこと）

人とかかわる力を育む「異年齢集団活動」 里庄西幼稚園・小学校長 松原 修

本校では昭和59年の食堂棟完成以来、30年以上の伝統をもつ食堂給食を実施しています。毎日、全校児童350人と教職員が一堂に会し、自校で調理した給食をおいしくいただきます。給食当番は、各グループ1年生から6年生9人が担当します。食事は6人がけのテーブルを1年生から6年生が囲む「ファミリー」が基本単位で、上級生は下級生に優しく教えながら責任をもって配膳やおかわり、片付けの世話をします。ファミリーでは楽しい会話も弾みます。給食以外にもこのファミリー集団で、「仲良し遊び」や「栽培活動」を行っています。これらの活動を通して、思いやりの気持ちをもちながら、いろいろな学年と楽しくかかわることで、児童の人とかかわる力と児童相互の好ましい人間関係を育てたいと考えています。



食堂給食の様子

幼稚園では、2年保育が始まって3年目になります。保育や行事に年少児と年長児との異年齢集団活動を意図的に取り入れ、自分の気持ちや思いを言葉で伝えることを生活や遊びの中で鍛えることで、幼児のコミュニケーション力の育成を図っています。